

広聴広報委員会視察報告概要

【埼玉県越谷市】

1 視察日時 令和6年11月18日（月）
午前10時から午前11時30分まで

2 視察先及び視察事項

- ・視察先 埼玉県越谷市議会
- ・視察事項 「越谷市学生議会」について

3 参加委員

委員長 秋田 孝 副委員長 大久保 竜一
石本 亮三、斉藤 かおり、神戸 鉄郎、中井 めぐみ、花岡 健太、長谷川 礼奈、
亀山 恭子、中 毅志、青木 利幸、大舘 隆行

4 視察の目的

本市議会では平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会の開催などの取組を中心に、広聴機能、市民参加について充実を図るべく、市民との意見交換を行っている。今年度は、より若い世代の意見を聴くため、議会報告会の対象者を一般市民から市内の高校の生徒に変更するなど、若年層をターゲットに広聴広報活動を進めている。

越谷市議会では、市民に開かれた議会を目指すとともに、議会活動を広く理解してもらえるよう議会の活性化に取り組んでいる。学生議会は、その取組の一環として、次代を担う若者が模擬議会を体験することによって、市政や議会への関心を深めてもらうことを目的に開催しており、この取組について視察し、今後の委員会としての若年層に向けた広聴広報活動の参考とするため、視察を行った。

5 視察の概要

越谷市議会 島田 玲子議長による歓迎の挨拶の後、議事課からの視察事項の説明、質疑応答が行われた。

6 概要説明

越谷市議会では、次代を担う若者に市政や議会への関心を深めてもらうことを目的に、

平成22年度から大学生等を対象にした学生議会を開催している。平成28年度からは公職選挙法改正により選挙権年齢が18歳以上に引き下げとなったことから、新たに高校生も加えて模擬議会を開催している。

【学生議員の対象者】

定数：16名程度

- 1、市内の大学（2校）から選出された学生：各大学8名程度。
- 2、公募による学生（市内短大へ選出依頼）募集人数に満たない場合に募集。

【学生議会の内容】

- 1、学生議員の中から議長、副議長を互選により選出する。
- 2、市長提出議案の質疑・討論・採決等を行う。
- 3、学生議員が市政に対する一般質問を行い、市議会議員が答弁者となる。
- 4、一般質問終了後、学生議員と市議会議員による意見交換会を行う。

【一般質問までの流れ】

- 1、市議会の一般質問通告に準じて実施
- 2、答弁者は市議会議員（4つの常任委員会から各3～4名、合計14名が担当）
- 3、サポート議員による学生の質問をサポート（16名が担当）
- 4、質問は1人1問（質問、答弁を含め15分以内、再質問は何度でも可能）

【意見交換会】

本会議での一般質問終了後、答弁を担当する議員が所属する常任委員会ごとに4つのグループに分かれ、学生議員と意見交換を実施。

【運営に関する要領】

●一般質問通告

議会から送付した資料等を参考に、学生議員が興味を持った質問項目の1つを通告。
四常任委員会それぞれに質問が4つになるように調整する。

●議案質疑

仮で作成した市長提出議案に対する質疑、答弁は市長役を担う議長が行う。

●議員（答弁議員・サポート議員）

質問項目を所管する常任委員会に振り分け、1人1問を担当。

答弁議員は必要に応じて執行部に協力を求めて答弁書等を作成する。

【その他】

- ・傍聴・・・傍聴規則に準じる。
- ・議会中継・・・インターネットによるライブ中継と録画中継を行う。
- ・会議録・・・本会議と同様に会議録を作成し、ホームページで公開する。

【効果・課題】

《効果》

参加した学生議員からは「議会を身近に感じることができた」等の肯定的な感想が多い。

《課題》

連携している大学以外からの公募参加者は毎年少ないため、個別に声かけ等を行い、参加者を募っている。

7 質疑応答

質疑 全国でもまれな、大学生を対象に学生議会を行っているということだが、これによって市民の反応というか、若者に参加していただいた影響として、一般質問の傍聴者数は増えたのか。また、選挙のときの投票率に変化があったか。

応答 一般質問の傍聴者数につきましては、直接的に学生議会の影響というところは確認できません。選挙の投票率ですが、全国的な傾向かと思いますが、越谷市も投票率はあまり高くないというのが実情です。学生議会を始めた当時、若者に市政に関心を持っていただきたい、行政に興味を持っていただきたいという当時の議長の強い思いがあってスタートした経緯があります。今でもその方とよくお話するんですけども、やはり学生議会の取組を実施することで、いろいろ市政や行政に興味を持っていただいて、そういった若者の中から、例えば市役所に勤めていただくとか、例えば一番のいいのは議員として立候補していただくような方が出てくればというようなことをよくおっしゃっていました。また、実際に第1回の学生議員が少し前まで議会事務局におりまして、学生議会を契機にし、行政に興味を持ったのかは分かりませんが、実際そういう職員が出てきているので喜ん

でいます。

質疑 第5回は大学生及び高校生を対象に開催しており、第6回、第7回は大学生、大学院生を対象に開催しているが、高校生を除いた理由を伺いたい。また、一般質問や議案質疑等々を含めて、議員と同じような流れで学生が行っていることはすばらしいことだと思うが、事務局の負担感はどうなのか。

応答 過去に何回か参加していた高校生が第6回以降に入っていない理由についてですが、学生議会を開催するかどうかを検討する代表者会で意見がまとまらなかったためです。高校生を対象としなかった理由としては、まず越谷市でせつかく2つの大学があるのだから、大学との連携を強化しようという思いが強いようです。では、高校生を参加させなくて良いのかというと、代表者会の中では、高校生を入れて開催したいという意見もありました。高校生を入れた際の理由として、有権者の18歳まで選挙権年齢が引き下げられたことでもありますので、やはり若い世代の方ということで、高校生を入れたほうが良いという意見の議員も大勢います。次回、学生議会を開催する際にはそういった部分から改めて協議を行っていくことになると思います。ですので、高校生は参加してもらわなくていいということではなく、いろいろと協議の中で、うまくまとまらなかったため、大学生を対象に実施をすることとなりました。その中でも、まずは、市内にある2つの4年制の大学に声がけをし、定数が集まればそれでスタートし、参加者が集まらない場合には枠を広げるということで意見がまとまりました。次に、事務局の負担感についてですが、学生との事務連絡等には、それなりに時間が必要となります。連絡方法としては電話だけでなくメールアドレス等も聞いています。議員と直接やりとりする場合がありますが、事務局を通す場合もあるので、その場合は事務局が間に入るので、その分は手間がかかります。今回で7回目の開催ということで、回数を重ねているので、スケジュール等はできあがっています。開始当時は初めての試みでしたが、半年間でなんとか開催までもっていったので、何とかなりました。

質疑 2点ほど伺いたいことがある。まず1点目だが、自治基本条例を根拠に模擬議会というのを開催しているとの説明があり、2年に1回開催しているとのことだが、議会が市民に説明したり、議会の理解を深めたりするような取組はしているのか。もう1点だが、第7回から議案質疑を始めたとのことだが、その議案の内容については、予算を伴う議案もテーマに挙げられてるいうようだった。開催までのフローを見ていくと、質問だけする形で、議決までは至らないというような形で、1度議会で決めたものをなぞる形でやるイメージなのか。

応答 市民に対する議会としての説明会等についてですが、当市議会は議会基本条例がございません。基本条例制定について盛り上がった当時も最終的に意見の一致に至らずという経過があります。一方で、議会説明会についても、試行いう形で実施したことはありますが、その後の検証の中で、意見の一致が見られず、いわゆる市民に対する広報的なものや、お知らせ的なものは特に実施していない状況です。また、議案質疑についてですが、仮の議案を用意しています。今回は「越谷市ストリートバスケット・スケートボード施設設置及び管理条例の制定について」という空想の議案を用意しました。越谷市内にストリートバスケット、スノーボードができる施設をつくる条例と合わせて、そのための補正予算の議案もつくっています。議案質疑をしてみたいと手を挙げていただいた学生議員2名に質疑をしていただき、それに対しては執行部側として議長と副議長が答弁を行って、最終的には議場で学生議員に採決を行っていただきました。

質疑 所沢市では平成28年と平成30年に早稲田大学の学生を交えたイベントを行ったが、その時にはゼミの教授に窓口になっていただき、そのゼミに所属している学生に多く参加していただいた。また、3月と9月には定例会にインターン生を2名ずつ募集している。学生を募集する際に、文教大学や埼玉県立大学の特定のゼミや窓口になっていただいている教授がいらっしゃるのか。回数を重ねてきた中で、議会への要望等はなかったのか。大学のほうから募集に対して何か注文等はないのか。

応答 学生を募集する際の窓口についてですが、市議会から参加依頼をするときは、学生課に依頼します。第1回は、あえて学長と面談をさせていただいて、市議会としてこういうことをやりたいので、ぜひ学校に協力していただきたいという形で、あえて大きな話として持ち込んだこともありました。今回の開催にあたっては、事務長と話をさせていただいて、募集をかけていただいています。学校からの要望については、大学からは特にありません。高校生対象でやった際には、秋はイベントが多いので、開催の時期がかなり難しいと言われました。学生議会の第1回目は5月に実施しましたが、5月に実施するためには、1月、2月ぐらいに声がけしなければいけません。そうすると、学年が変わったり、場合によっては4年生に声をかけても卒業してしまったりするので、秋に開催することにしましたが、秋は高校生、大学生も学祭があり、少なくとも市内の2校の学祭の日程をずらして、その上で学生議会の日程を作っているのですが、高校生に募集した際には、いくつかの学校からは行事の関係もあって、協力できないという回答がありました。

質疑 学生の興味というか、学生議会に参加したいと思っている学生はどれくらいいらっしゃるのか。公募はなかなか集まらないということだったが、文教大学と埼玉県立大学の学生は学生議会のことを知っていると思うので、その中で、参加を希望していただいている学生はどれくらいいるのか。

応答 学生の興味の持ち方や意欲ですけれども、短大を含めた3つ大学から推薦をいただく際に、一斉のメール配信を行うと一定数が集まり、足りない人数を公募していますが、推薦に応募してくれる方は意欲を持って、毎回9名程度は応募していただいています。大学の特性もあるのかもしれないですけれども、文教大学は学校の先生を目指す生徒が多いですし、埼玉県立大学は福祉系の分野が強いですので、やはり行政といった福祉に関心があります。実際に一般質問を見ても、そういったことに焦点を当てたものが多かったです。行政に関心がある方が全体的に多いと思います。

質疑 経費についてだが、ここまで本格的にやるということが代表者会で決まったと思うが、通常では会議録を作成してとまではならないと思うので、どういった経緯でこの形式になったのか。

応答 第1回の学生議会から、基本的には議会と同じ手順で進めていて、最終的には会議録を作っています。やはり、第1回を開催した当時の議長のせっかくやるなら、きちんとやろうという思いがあったのではないかと思います。細かな会議の部分までは分かりかねますが、いろいろお話をさせていただくとやっぱりいろいろ思いがあったようです。実際、サポートする事務局側も極力通常の議会と変わらないような流れで、渡す資料等も全く同じ形式にしています。先ほど、仮の議案という話をさせていただきましたが、議案書を作成して、当日の議事日程表を配布しています。当時の議長の強い思いがまずあって、そちらを踏襲して、極力実際の議会と同じ流れを体験していただくことで、議会はこういうことやっているという興味を持っていただきたいと思います。

質疑 議事録の作成について、70部作成とのことだが、これは参加した学生にお渡しすると思うが、それ以外はどうしているのか。

応答 実際に参加された学生議員と、市議会議員と来賓の市長、副市長、教育長と協力していただいた学校にお渡ししています。こういったものは1部作るのも、100部作るのもあまり金額が変わらないので、配布先を検討し、以前は学生議員も30人いた時もありましたので、毎回70部を用意しています。

質疑 学生議員は何年生が多いのか。資料の写真では男女比は同じくらいではないかと思うが、今までもそうだったのか。また、当日の様子はインターネットによるラ

イブ中継、録画中継、市議会ホームページで公開しているという説明だったが、なかなか学生にしたらハードルが高いというか、参加するのに躊躇するのではないかと思う。インターネット中継は議員でもとても緊張するところなので、その点についてお伺いしたい。

応答 参加者については、男性が多い時もありますし、女性が多い時もございます、大体半数ぐらいなっているかと思えます。学年についてですが、日程の関係もございまして4年生ですと、就職活動が忙しいので、多いのは2年生から3年生の参加が多いです。また、応募についてですが、いろいろこちらからの情報提供できるような媒体を使って公募させていただいているんですけども、中継することでハードルが高くなってしまうという意見は内部ではありませんでした。いろいろ目にさせていただくような方法で掲載していますが、なかなかそれでも本当の意味での公募の方というのは、各回1名から3名程度で、それ以外は個別でいろいろ当たって参加していただいています。今回は成人式の実行委員が市内の各地区センターの窓口でいろいろやっていたのを知っていましたので、地区センターの所長に当時の実行委員長とかやった方に声がけしてもらえないかと依頼し、声がけしていただけて参加していただいた方もいらっしゃいます。いずれにしても、公募につきましては、正直参加者が少ないのが実情ですので、参加者の考え方につきましては次回以降の検討材料にしたいと思えます。

質疑 大学生向けの模擬議会というのは珍しいと思うが、高校生を対象とせず、大学生に向けた議会を開催するメリットを教えてください。

応答 私個人の意見としては、高校生や若い世代をいろいろ幅広く入れていったほうが良いと思うんですが、一方でやはり越谷市と市内の2つの大学との連携といった部分もございまして、学生議会に限らず、様々な分野で協力し合って活動していただくきっかけになっていただけるものと思っています。高校生を対象にする時にいろいろと悩みがありまして、例えば、いわゆる全日制の高校だけであればいいんですけど、通信制の高校は市内に2つありまして、そこに声掛けすべきではないかという意見は事務局の中でありました。それこそ大学の話でも、4年制の大学に声がけをしていますし、短大のほうにも声がけさせていただいています。その一方で、どこまで声がけすべきものなのかという課題を抱えながらやっているのが実情です。今後もいろいろ対象者については改めて代表者会等で協議していただきます。その中で、やはり高校生まで対象を広げるべきだというような意見もございまして、今回は大学生向けに開催しますが、第8回から同じようになるかという検討となります。

8 委員長所感

越谷市議会では、次時代を担う若者に市政や議会への関心を深めていただくことを目的に、平成22年度から大学生を対象にした学生議会を始めたとのこと。始めた当時の議長が越谷市には2つの大学があることから連携を強化したいという思いから、高校生はこの学生議会のメンバーに入っていませんが、越谷市には越ヶ谷、越谷北、越谷西、越谷東、越谷南高校の普通科、越谷総合技術高校には工業科・商業科・家庭科があり、そして、通信制の高校もあるので、高校生まで枠を広げたらもっと幅の広い声が聴け、越谷市に愛着を持つ生徒がもっと増えるような気がしました。なぜなら第1回参加者の中に議会事務局の職員になっていた生徒がいたという話を聞いたからです。

【山形県南陽市】

1 視察日時 令和6年11月19日（火）
午前9時30分から午前11時まで

2 視察先及び視察事項

- ・視察先 山形県南陽市議会
- ・視察事項 南陽みらい議会

3 参加委員

委員長 秋田 孝 副委員長 大久保 竜一
石本 亮三、斉藤 かおり、神戸 鉄郎、中井 めぐみ、花岡 健太、長谷川 礼奈、
亀山 恭子、中 毅志、青木 利幸、大舘 隆行

4 視察の目的

本市議会では平成21年の議会基本条例制定をはじめ、議会改革を進めてきた中で、議会の広聴広報分野においては、市議会だよりの充実や議会報告会の開催などの取組を中心に、広聴機能、市民参加について充実を図るべく、市民との意見交換を行っている。今年度は、より若い世代の意見を聴くため、議会報告会の対象者を一般市民から市内の高校の生徒に変更するなど、若年層をターゲットに広聴広報活動を進めている。

南陽市議会では、若い世代に政治に関心をもってもらい、南陽市の将来を担う人材を育てていくことを目的とし、公募で選ばれた中学・高校生が「市長」や「議員」になり、市の地域活性化策に取り組む「南陽みらい議会」を開催しています。これらの取組について視察し、今後の委員会としての幅広い層に向けた広聴広報活動の参考とするため視察を行った。

5 視察の概要

南陽市議会島津副議長による歓迎の挨拶の後、佐野学校教育課長から視察事項の説明、質疑応答が行われた。

6 概要説明

【目的】

南陽市の未来を担う中高生世代が、身近な課題に目を向け、市政への提言や意見を積極的に取り組むことを通じて「地域に根差した人材の育成」「高い志を持って、自立的

に生きる人材の育成」を図る。

【対象者】

市内中学校及び山形県立南陽高等学校に在籍する生徒 10名程度

【開催までのスケジュール】

6月 第1回 市長所信表明

7月 第2回 政策提言・一般質問

8月 第3回 事業に関する協議・予算の議決（約8回の会議を開催）

（政策実現期間：9月～12月）

12月 第4回 事業報告

【活動内容】

<令和5年>

交流イベント「Come on!南陽 遊びと謎解きのもりwith菊まつり」を開催
市のPR動画を作成

#いいどこ南陽 画像募集を行いInstagramに掲載

<令和6年>

有権者・市民アンケートと街頭インタビュー（山形駅等で実施）

パンフレットの作成

ふるさとCM大賞への応募のための動画作成

【予算】

政策実現費として50万円を支給している

➡予算の使い道は関係各課の係長級の職員がアドバイスをしながら検討

（市内のイベント等を所管する課と庁内横断的なプロジェクト）

【成果と課題】

有権者へのアンケートの自由記述では「中高生が中心になって取り組む事業がなかったのが大変良い」「地域を巻き込んでの行事によって、地域の良さを知れた」といった肯定的な意見がある一方で、「有権者である実感がわくような取組にしてほしい」「若者に議会を任せるのは良い活動だが、もっと私たちの言葉も聞いてほしい」といった事業

のねらいに疑問を持つような意見も出ている。

市としては庁内を横断した多角的な助言や支援を行うため、それぞれの課の強みを生かした取組がなされた。

7 質疑応答

質疑 3点伺いたいことがある。1点目は、生徒たちは執行部とのやり取りが多い印象を受けたが、議員は生徒たちにどういった関わり方をしているのか。議会の動きがあまり見えなかったっていうのがあった。2点目は、7月27日から8月29日の間に8回も協議会を行っている。中学校が3つ、高校が1つある中で日程調整を行うにはどのような方法を取っているのか。3点目は、以前は小中学生を対象にしていたという説明があったが、中高生を対象にした理由を伺いたい。また、以前は予算もなかったようなので、その経緯も伺いたい。

応答 1点目の南陽市議会との関わりですが、直接的にアドバイスをいただくということはありません。もちろん、予算を認めていただいているので、温かく見守っていただいています。2点目の日程調整ですが、南陽市地域総合型教育の中に、小中学校だけではなく、高校や大学も緩やかなネットワークの中に入っていて、そもそも連携する意識は、もしかしたら他自治体よりもあるのではないかと思います。中学校の連携であったり、それから高校の協力であったりというのは、得やすい環境にあるというふうに捉えています。先ほど申し上げましたが、生徒も忙しいですが、盛り上げていこうという機運は一緒ではないかと思います。また、スクールバスを使ったり、財政課の公用車を使ったりといった形でネットワークも軽いところはありがたいです。庁内横断的なプロジェクトということでの効果ではないかと思います。3点目ですが、小中学生議会の際の予算についてですが、教育委員会の事業ということで学びということがメインだったものですから、夏休みに1回だけの市当局とのやり取りを行う議会の予算のみですので、事業実現の予算は当初はありませんでした。市から50万円を好きに使って学生が自由に使い道を考えるというふうになったのは昨年からです。

質疑 議員は関わっていないということか。

応答 直接的に議員の皆さんから何かご助言いただくことはありません。

質疑 市執行部の主体の事業ということか。

応答 最初は教育委員会だけのものではあったんですけども、総合計画の位置づけなどを踏まえると、市全体でやったほうが学びに効果があるのではないかと、南陽市のためになるのではないかとというような政策の一環となっています。

質疑 一月に8回協議会を行うのは授業に対してすごい影響があるのではないか。

応答 一月に8回というわけではなく、6月から12月までの間に8回ということで、例えば大会があったり、テスト期間中はそれもままならない部分もありますので、細かい調整はタブレット端末を使用して行っています。

質疑 子供たちが自ら実践して経験するすばらしい取組だと思う。この取組に対して教職員はどのように関わっているのか。

応答 市内の小中学校を所管する者として、教職員の働き方改革を考え、市の事業によって学校本来の業務に負担をかけるということは避けたいので、極力学校との関わりはないように考えているところです。この取組に参加を希望する場合は、先生方に申込書を提出する程度で、先生に負担をかけないようにしています。

質疑 応募するように強く勧めるようなことはしないということか。

応答 こういう市の事業があるという紹介は各校でしていただきますし、迷ってる生徒の背中を押してもらおうという程度は、日々の関係性の中ではあるのではないかと思います。

質疑 参加者が集まらずに困るというようなことはあったか。

応答 毎回集まるのか、逆にたくさん集まったらどうしようかと考えながら募集をかけていますが、今のところ特に集まらなかったということはありません。

質疑 3つの選挙区から計12名の議員を選出するとのことだが、生徒会の選挙みたいに選挙をするのか。

応答 当初は立候補者がなかった場合はどうしようかと考えましたが、選挙区に分けるというような構想もあったんですけども、手が挙がっている状況だったものですから、無理にしなくてもよいと思っています。人数が多い学校からはいっぱい出てきていますし、小規模の学校からの議員が少ないという現状はありますが、意欲を優先したいと考えています。

質疑 12月に報告会を行うとのことだが、昨年の傍聴者は結構多かったのか。

応答 特に広報は行っていなかったのが保護者の方が中心でした。

質疑 政治の話について、教育現場は少しちょっと距離を置きたがる傾向にあると思う。今みたいに実績を積み重ねていけば、学校の教育現場にも認知される。総合計画に位置づけされているが、最初の教育委員会はどのような対応だったのか。

応答 小学生を選出するというので、議場で市長と当時は当局とのやり取りができる、ある意味チャンスかなという受けとめ方をした人もいましたが、大ごとだという意見もありました。しかしながら、教育委員会と学校との関係の中では、学ぶチャンスとして、学校だけではなかなか学びができない部分のチャンスが広がって

る、フィールドが広がってるという捉え方はありました。議会と同じように質問書を出して当局は答弁を考えるのですが、突拍子もないアイデアに対して、市長が答弁するので、無下にもできないですし、鋭い質問をする児童生徒もいたので、大変だったと思います。大変でしたけども、学校側としては非常に良い学びのチャンス을いただいている感じています。小学生のときに小中学生議会に参加して、中学生になって、中学生議員として参加したという生徒が「3年前に、こういう質問をしてこういう答弁をいただいているんですがどうになりましたか。」という質問が出まして、それに対してはこうやって、こういう状況でここまで作っているというような答弁があり、ここが難しいというようなことを市長から答弁していただいたのこともありました。政治教育というよりも、視野を広げるといった今言われている探求的な学びもスタンスとして、チャンスになったと思います。

質疑 子供たちが自ら考えて参加していることに驚いている。この事業は市民にどの程度認知されているのか。

応答 我々も広報が上手ではなかったということは多分にあるのですが、少なくとも保護者には知っていただきたいと思います。また、市内横断的なプロジェクトとしてやっておりますので、市報であったり、ホームページだったり、市のフェイスブックで積極的に発信するように努めているところです。認知度がどのぐらいかという調査ではないんですけど、この度、市民アンケートに対して1,600件の回答があったのは予想よりも多かったもので、4回の議会を都度都度、市報の紙面をだいぶ割いていただいているのと、地元新聞の山形新聞にも取材していただいたり、ケーブルテレビで特番を作りたいということで、去年1年間を追っていただいたりしました。全員協議会の中で「動画を作りたいが予算はどれぐらいかかるのか」という検証をしていたところを取材していたケーブルテレビが、「それならば、うちで作りましょうか」と言っていただいたと話をいただいて、完成に至ったということもありました。ですので、広報としましては、ケーブルテレビの特番、地元新聞、市報、フェイスブック等で広めているところです。

8 委員長所感

「南陽みらい議会」の取り組みについては、令和6年3月定例会で一般質問するに当たり、南陽市教育委員会学校教育課の課長から同県遊佐町の「少年議会」をアレンジしたものであるとのお話をお聞きしたことから、大変興味が湧き、今回の委員会視察で伺うことができ、内容を共有できたものと考えます。

本市でも今年度から高校生を対象とした議会報告会を始めたばかりですが、人口減少が進

む中、子供たちが生まれ育った地域に関心と愛着を育み、進学や就職でいつときは本市を離れても、いつの日か戻りたいと思ってもらえるような、さらなる取組をしていきたいと思いました。